

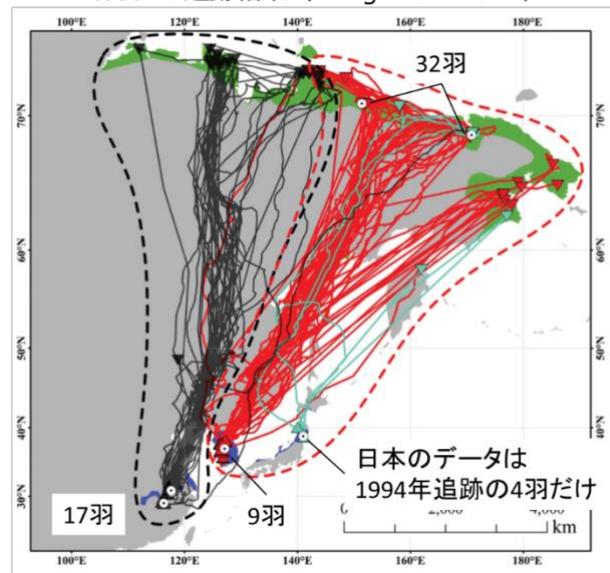
誰かいい名前を考えて！ガンカモ類作業部会国内科学技術委員会の紹介（澤祐介）

私がガン類に関わりはじめたのは、2016年のコクガン調査から。まだまだ5年と日が浅いです。それでもここ数年のガン類の研究の発展は、非常に目覚ましく、一気に東アジアレベルでの理解が進んだのではないかと感じています。特に、中国の勢いがすさまじく、ロシアや周辺国を巻き込んで大規模な標識、発信器追跡をしています。Deng et al. (2020)の論文によると東アジアのマガンの追跡数は62羽！しかし、そのうち日本の引用データは、1994年に追跡された4羽の結果のみ。マガンの追跡から26年もたっている…。ちょっと衝撃を受けました。

日本には、マガン20万羽をはじめとして、ヒシクイ、コクガンがいて、希少種ガン類のカリガネ、ハクガン、シジュウカラガンも回復してきている。研究フィールドも豊富なのに、なぜ、標識や発信器研究があまり進んでいないのか？？？と疑問を持ちました。

日本ではアジアの中でも希少ガン類が増加している稀有なフィールドであるのに、そこでの捕獲調査が進まないことは「損失」なのではないか…。資金、捕獲技術、人材など様々な要因があるだろうが、どうにか解決できないか、と考えたのが「EAAFP ガンカモ類作業部会国内科学技術委員会」を立ち上げるに至ったきっかけでした。

マガンの追跡結果 (Deng et al. 2020)



活動内容の詳細は下記の HP に譲りますが、

<https://miyajimanuma.wixsite.com/anatidaetoolbox/awgstcjapan>

この委員会でやりたいことは、

「ガンカモ類の捕獲・標識の長期的な体制を構築する」

ことです。

今年から、毎年どこかでガン類捕獲研修会を実施していきます。これはガン類渡来地の地元で、長期的に捕獲・標識をする人材を育成することを目的にしています。そしてもちろん、標識したガン類の観察記録も全国的に収集していきます！

みなさん、可能な形でこの委員会活動に加わってくだされば幸いです！！